シェアと「いいね！」で広げる〝魅せる土木〟
――土木構造物の投稿画像サイトを主宰――

［語り手］吉川 弘道 氏　東京都市大学 工学部都市工学科 教授
［聞き手］藤山 知加子　編集委員

2016年4月28日（木）東京都市大学吉川研究室 にて

東京都市大学の吉川弘道先生は、土木構造物の〝美〟の側面に着目し、その壮麗な画像を自らが主宰するWebサイトやSNSで紹介している。開設して3年。サイトが認知されるとともに、土木ファンからの投稿やシェアも増えてきた。「土木構造物の魅力を伝え、次世代につなげたい」という吉川先生に、お話を伺った。

画像をシェアし合うことで多くの人の興味を誘う

――吉川先生が主催するWebサイト「土木ウォッチング ―インフラ大図鑑―」では、道路、鉄道、ダムなど、施設ごとに分類された土木構造物の画像を収集して公開し、人気を集めています。サイトを立ち上げたきっかけを教えてください。

吉川――土木構造物本来の魅力をいかに人に伝えるか、「魅せていくか」ということに関心を持っています。

以前は「空から土木」という動画シリーズをウェブで公開していました。Google Earthのツアー機能を使って、地球全体の映像から、レインボーブリッジや、黒部ダムなどにズームインしていくというものです。これはこれで面白いと思うのですが、もっとたくさんの人に見てもらうには、シンプルに土木構造物の画像を投稿形式でどんどん掲載したほうがいいのではないかと思い、2013年4月に「土木ウォッチング」のサイトを開設しました。

その後に、IT系の友人から勧められて、Facebookページを使った「Discover Doboku 日本の土木再発見」を始めました。「土木ウォッチング」をはじめ、同種サイトの画像などをシェアし、「Discover Doboku」で紹介する仕組みです。それを見た人がFacebook上でさらにシェアすることで情報が拡散し、土木に関心がなかった幅広い人びとにも興味を持ってもらえる――そんないい相乗効果を上げています。いわば「土木ウォッチング」が〝ストック〟であるのに対し、「Discover Doboku」は〝フロー〟として機能しているのです。

土木構造物の画像に2000の「いいね！」

――閲覧数はどれくらいでしょうか。

吉川――「土木ウォッチング」は月2万ページビューほど。そのうち20～30％の方は「Discover Doboku」を経由して訪れています。「いいね！」機能があるので、反響もすぐわかります。「土木ウォッチング」に投稿した画像の中には2000を超える「いいね！」が付いているものもあります。

――画像を選ぶ基準はありますか？

吉川――見てきれいなことですね。投稿された写真はすべて掲載する方

吉川弘道 氏
YOSHIKAWA Hiromichi

1975年早稲田大学理工学部卒業。工学博士。技術士（建設部門）、特別上級土木技術者（鋼・コンクリート）。米国コロラド大学客員教授を経て、1996年より現職。日本コンクリート工学会賞（論文賞）、土木学会論文賞、構造工学シンポジウム論文賞（土木部門）などを受賞。著書は『鉄筋コンクリート構造物の耐震設計と地震リスク』（丸善）、など多数。

針ですが、私自身はあくまで景観の良さで選択しています。国土交通省、鉄道・運輸機構、電力会社、建設会社、新聞社などさまざまな企業から、データと画像を提供してもらっています。現時点で、（私自身を含む）個人投稿者および約40の事業体から、3年間で500点ほどが集まりました。

最初の頃は、何に使うのか質問されることもしばしばでしたが、付き合いのあるエンジニアに趣旨を説明し、好意的に投稿をいただいています。最近では、サイトが認知されてきたのか、多くの事業体から、画像に付ける土木構造物の説明文まで先方で書いて送ってくれます。

写真が充実してきたので、2年前には大学の図書館で「Discover Doboku」と題したパネル展を企画しました。サイトに投稿された写真から厳選した8枚を展示したほか、「土木構造物の入門講座」、「海岸の土木遺産」など、テーマ別に国や自治体、企業、写真家から募った画像や資料を展示しました。準備に3ヶ月かかりましたが、反響も大きく、やってよかったと思っています。

写真1　土木ウォッチングのサイト。施設別、構造物別に分類された中から見たい画像を選択できる

「きれい、すごい！」から土木の魅力に触れてほしい

――二つのサイトをどのように利用してほしいですか。

吉川――いろいろな人、特に若い世代の人にもっと見てほしいですね。子どもはメカや図鑑類が好きですから、このサイトを親子で見れば、吊り橋がどういう構造になっているのか、土木に興味を持つようになると思うのです。

公共物である土木構造物は、高速道路もダムもみな国民の財産であり、受け継いでいかないといけないもの。まして日本は世界トップクラスのインフラ大国です。次代を担う人たちにぜひとも興味を持ってもらった上で、バトンを渡したい。そういう気持ちでサイトを運営しています。

よく「土木構造物の美は機能美なのか」と聞かれたりしますが、私としては、そうした議論ができるベースをつくりたい。それには土木に関心のある人たちが、コミュニケーションし、情報交換することがきわめて重要だと考えています。サイトをそのための場に、育てていきたい。

今後の活動として、高校生らに土木の魅力を伝える「土木U18プロジェクト」なども考えています。まずは、「きれい、すごい！」から、土木の世界に入ってきてほしいですね。

写真2　図書館企画展「Discover Doboku」の模様。多種多様の土木構造物の画像や資料が展示され、多くの人びとが訪れた

［執　筆］三上 美絵

（担当編集委員：鈴木三馨）